

特集
あたり前の中に

神様が敷いてくれるレール

あかね助産院院長
奥田朱美

私は数年前、中耳炎からくる突発性難聴を繰り返して、ついには真珠腫性中耳炎になって手術を受けました。

手術を受けて二年くらいしたところから、診察に行くたびに、「右耳の鼓膜に水がたまって鉛色になっている」と言われ、水を抜いてももらうことが何度かありました。このままでは、また手術の必要があるのではないかとビクビクしていたのですが、教会長

という音が頭に響きます。最初は耳鳴りという感じが感じて、食事のたびに違和感がありました。

しかし、数年経つとこれが気にならなくなるのです。耳鳴りも、コリコリという咀嚼音も、当たり前になつてくるのです。自分の中の「普通」が変わってくるのです。

耳が聞こえなくなつたときは落ち込みました。「なぜ私だけが？」と思つたりもしました。しかし、左の耳は聞こえるので生活には不自由しません。それだけでもありがたいと感謝していると、時が経つにつれて、つらさも少しずつ薄れていくのです。人間の身体はどんな変化にも対応して、順応性が出来てくるのですね。おかげで左耳は地獄耳と言われてどこまでもよく聞こえます(笑)。

当たり前前に耳が聞こえることが、いかにありがたいか、耳が聞こえなくなつて実感

資格検定講習会後期を受講した後に病院へ行くと、医者は「たまっていた水がすっかりなくなり、鼓膜も綺麗なピンク色に戻っている」と言うのです。医療者である私自身が今でも不思議に思うほど、鮮やかな御守護を頂きました。

今、右耳は常に耳鳴りが続いているような状態で、ほとんど聞こえません。漬物などを食べると、口の中で反響してコリコリ

しました。また、耳が聞こえなくなつても、いつまでも落ち込まず、心が少しづつ切り替わっていくのです。これもまた、私自身の力ではどうすることもできない、親神様の御守護によるものだと思うのです。

今私は、北海道で生活をしながら、「わらべうたベビーマッサージ」を広めるために日本全国を回っています。

ベビーマッサージは、赤ちゃんの身体をなでたり、さすったりすることで発育を促し、親子の絆を強めるものです。「わらべうたベビーマッサージ」は、童歌を歌いながら、このマッサージをするものです。童歌を歌うことで、赤ちゃんがリラクセスし、お母さんも楽しくマッサージができるのです。

「わらべうたベビーマッサージ」の絵本(現代図書刊)を出版したのは、私がおちばで「あかね助産院」をやっていた二年前

※真珠腫性中耳炎…一部の組織が球状に増殖し、耳の周りの骨を破壊する病気のこと。

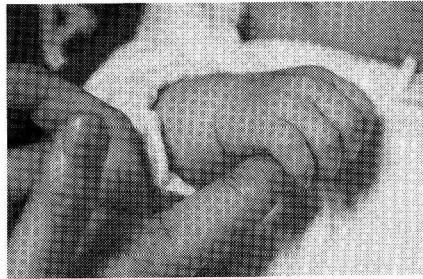
のことです。

当時は多いときで月に八人の妊婦さんのお産を受けていましたから、助産院を離れて全国を回るなんて考えられませんでした。

しかし、後継者が育つてくれたおかげで、私は夫のいる北海道に拠点を移し、自由に全国を駆け巡ることができるようになったのです。婦人会本部をはじめ、

各地の教会で母親講座の講師の御用を頂いたりもしています。これは親神様が、「頑張りなさい」と私の背中を押してくださっているように思うのです。

こうした活動を続ける中で、各地のテレビや新聞に「わらべうたベビーマッサージ」が取り上げられることが増えてきました。



そのきっかけになったのは、テレビ朝日の『人生の楽園』だったでしょう。北海道へ移って間もなく、夫が取材を受け、私の「わらべうたベビーマッサージ」も番組内で紹介されたのです。

さまざまな土地所で、さまざまな出会いがあります。その出会いが新たな出会いを呼び、輪がどんどんつながって、南は沖縄から北は北海道まで、全国に一千人近いインストラクターが育ち、本も重刷を繰り返して、今年七月には合同出版より改訂版が出版されました。

天理で始まった「わらべうたベビーマッサージ」が、こうして全国へ広がっていくのは、数年前にはまったく考えられないことでした。

「人生は自分の力で切り開くもの」とよく言います。確かに、何の努力もせずに道は

開けません。周囲から見たら、何の努力もせずに大きな成功をしたように思う人も、見えないところで努力していたからこそ、大きな成果を手にすることができたのだと思います。

しかし、すべてが自分の力だけで動くわけではありません。むしろ、私のこれまでの人生を振り返ると、要所要所で親神様が先回りの御守護をしてくださり、ルールを敷いてくださっているのだと思うことが、たくさんあるのです。

そのレールに乗るか、乗らないかは自己次第です。運命の分岐点で、何を基準に進む道を決めるかが大事になってくるのです。

変化の一切ない、現状維持という選択肢は楽なものです。しかし、自分の中に「人のためになることがしたい」とか、「自分にとって、やりがいのあることをしたい」といった信念があり、目的がはっきりしていれば、おのずとそこへ至る道が見えてくる。

その道を信じて進むことで、親神様の敷いてくださったレールに乗ることができるようだと思えます。

もちろん、そのレールに乗ったからといって、万事順調に進むとは限らないでしょう。時には山あり谷ありの道すがらになるかもしれません。そんな中で、親神様の思召がどこにあるかを探し求め、周囲の人の話に耳を傾け、時には軌道修正をしながら、進んでいかねばなりません。

どんなに当たり前と思うようなことでも、決しておろそかにせず、親神様の御守護だと受け取り、感謝する心こそ、人生を切り開くいちばんの鍵なのです。

失敗や挫折など、自分にとって望ましくない結果になったとしても、それもまた、親神様の御守護なのです。むしろ、望ましくない結果になったときほど、感謝の心を持って受け止めることが大切なのです。

(おくだ あけみ)